

児童発達支援／事前配付資料

「演習事例」及び事前課題について

児童発達支援管理責任者研修

- ◆ 研修では、本事例を活用し演習を行います。
- ◆ 事前に内容を熟読して、「課題の整理表」(記入様式1)「個別支援計画」(記入様式2)を作成してください。「事例の概要」については、100字程度でまとめてください。
- ◆ 所属する事業所・施設における「地域の関連機関との連携」(記入様式3)についてご記入下さい。
- ◆ 11月20日(火)に、各自作成した「課題の整理表」「個別支援計画」「地域の関連機関との連携」を **各10部**ご持参ください。演習のグループワークで使用致します。

- ◆ 「児童発達支援ガイドライン」(山形県社会福祉事業団ホームページよりダウンロード)を印刷し読んで下さい。ダウンロードした文書は、講義で使用します。11月20日(火)にご持参ください。

* 当日上記の講義では、要点のみ説明します。事前にご確認していただき、準備の方よろしくお願い致します。

【その他】

- ◆ 11月20日(火)に、普段使用しているアセスメント票、個別支援計画の様式を **1部** と名刺を **10枚**、ご持参ください。

◆ 11月20日(火)に必ず持参していただくもの
(講義や演習で使⽤します)

- ・名刺 10枚
- ・「児童発達支援ガイドライン」 ダウンロードした文書は、講義で使⽤します。

・11月20日(火)の朝、①～⑤は、提出になります。

＊①～③は、片面印刷、ホッチキスで綴らないで下さい。

①「課題の整理表」(記入様式1) 10部(片面)

②「個別支援計画」(記入様式2) 10部(片面)

③「地域の関連機関との連携」(記入様式3) 10部(片面)

④普段使⽤している「アセスメント票」の様式 1部

⑤ // 「個別支援計画」の様式 1部

課題整理の記入についての工夫

- ・事例研究①では、(1)アセスメントの実施と課題の整理(2)時間軸に配慮した到達目標を含む個別支援計画の作成が目的である。
 - ⇒ 課題整理表は、発達支援(3項目)と家族支援(1項目)、地域連携(1項目)の領域ごとにまとめるような様式になっています。
- ・事例の概要(要約)は、全体像の把握、要約の有効性を確認するため、以下の要領を参考にして記入するとその差異が確認できます。

- ・ご本人の発達課題や意向等のニーズを一つひとつ整理しながら、支援課題を全体的に整理する。
- ・支援課題については、ご本人や家族の状況、環境の状況に分けながら整理する。
- ・支援者の気になることや推測できることには、ご本人の強さ、可能性等を含めて整理する。
- ・アセスメントはできることとできないことをチェックすることが多く、ご本人の全体像がぼやけてしまうことがある。ご本人や家族の希望に即した支援を行うためには、ご本人の全体像を確認(要約)する。
 - ⇒ 事例(アセスメント)の概要を、100字程度でまとめてみる。
- ・ご本人の全体像をふまえて、ご本人のニーズに即した支援を行うための解決すべき課題を整理する。

課題の整理表

受講者名 _____

利用者名 _____さん

事例の概要(100文字程度)

	発達課題(ニーズ)・意向等の把握	利用者の状況 ・環境の状況	支援者の気になること ・推測できること (事例の強み・可能性)	解決すべき課題 (具体的な到達目標)
発達課題① ()				
発達課題② ()				
発達課題③ ()				
家族支援				
地域連携				

課題の整理表作成時の留意点(例)

他の事例の例です!!

本事例とは関係ありません。

目標とつながっていきます。

利用者名

さん

	発達課題(ニーズ)・意向等の把握	利用者の状況 ・環境の状況	支援者の気になること ・推測できること (事例の強み・可能性)	解決すべき課題 (具体的な到達目標)
発達支援	友達のやっていることに興味があり、自分でやってみたい様子。 ・まずは、情報提供①～④や子どもの支援利用計画等に記載されているニーズに該当する文言をそのまま抽出する。	食事(お箸)やままごとの時、友達の様子をじっと見ているが関わりはない。 ・まずは、情報提供①～④や子どもの支援利用計画等に記載されている状況で左記に挙げたニーズに該当する文言をそのまま抽出する。	興味がある時には、じっとお友達の様子を見ることができる。 ・障害特性や家族像、地域資源等の一般的なイメージから推察される「強み・可能性」の記載。 ・より個別性を持たせるため、具体的に記載する。	興味があること、やってみたいことに挑戦する ・ここで挙げられた記載内容が、「個別支援計画」の具体的な到達目標となりうる。文言は自分で考える。
家族支援				
地域連携				

事例の概要(100文字程度)

個別支援計画作成のポイント

- **子どもの(障害児)支援利用計画に基づき個別支援計画を作成。**
- **本人や家族のニーズがきちんと反映されているか？**
- **支援者側の押し付けになっていないか？**
- **本人や家族を中心とした計画を、本人、家族と一緒に作っていく過程こそが大切。**
 - 様々な場面にキーマンが存在する。困難な事例とされる場合においても、力のない状態はない。
 - 障害の受容ができていないことを目標が達成できない理由にしない！
- **家族が(場合によっては子ども自身も)分かりやすい言葉で書く**
- **支援内容を抽象的な言葉でごまかさない。**
 - (例：安定した生活、楽しい暮らし、薬がちゃんと飲めるように・・・etc. 但し、家族、特に母親の精神状態から判断して、意図的に支援目標の表現をあえて抽象的にしていくことも必要になることはあります。)
- **発達支援の視点を必ず意識した上で、具体的な目標、期間を設定する。**
 - 内容が具体的であるほどに家族はストレスになる場合もあります。示された側の気持ちも考えて、目標や期間の設定はしていきましょう。また、言葉の表現・使い方も気をつけ、何度も見直しをしていきましょう。
- **家族の持つ力を引き出し、子育てを少しでも前向きに考える計画になっているか。**
 - スモールステップで着実に進むということではなく、いくつかの達成可能な目標を示しながら、その優先順位を共に考え、互いに納得した上で、一つ一つゆっくりと取り組んでいくことが、長期的に考えると大切です。また、子どもの成長にも、家族の気持ちにも、「停滞」「立ち止まり」「休憩」は必要です。あえて「向上」を目指さずに、子どもと家族の気持ちを和らげる時期を意識できるといいですね。
- **本人や家族が出来ること、出来そうなことは、温かなまなざしで見守る。**
 - 要望があったから支援を行うというものはいけません。話を聞き、寄り添うだけでも立派な支援になることは、多いものです。

課題の整理表(例)

* 例です。本ケースとは関係ありません。課題をする際、参考にして下さい。

No	発達ニーズ・意向等の把握	初期状態の評価 (利用者の状況 ・環境の状況)	支援者の気になること ・推測できること (事例の強み・可能性)	解決すべき課題
発達支援	* 今はとにかく、B園でも保育所でも、その生活に慣れていってほしい。	B園のクラスに体験で入った時は笑顔は少し見られ、母親に抱かれて、子どもの様子をよく見ていた。 大人との一対一での遊びでは、反応はよく、対人興味は良好。	体力的にはまだ1歳後半くらいの状態。まだまだ疲れやすい状態にある。スキンシップを求め、笑顔はさらにたくさん引き出せていけると思う。自分でやろうとする自我は芽生えている	集団の流れとは別に、ゆっくりと過ごせる時間の設定は大切ではないか。その中でも本人なりにできることは、手を出しすぎないようにして、見守っていけるよう配慮すべき。
	* まだしゃべることができない。焦ってはいないが、たくさんしゃべるようになってほしい	認知面、手先の操作性のレベルは一歳前半で、口腔機能だけでなく全般の筋力の弱さ等を考えると、まだ発語が出てくる段階ではない。	関心があることはよく注目し、繰り返して何度も遊んで楽しむことができる。 何でも緊張はしやすく、慣れるまでに時間はかかるが、気を許すと積極的に人と関わろうとする姿も見られる。	言葉の発達に関しては、時期を見て両親に対し、どのような発達になるのか見通しを示していく機会を持つことは必要。 表現としては、動作模倣と日常生活場面でのジェスチャーの獲得の段階。
	* 保育所では友だちを作ってほしい(おとうさん)	子どもが遊ぶ様子を見ていることはある。持っているものをとられた時は、きょんとしていた。個別指導を行う部屋では、大人が行う手遊びやペープサートによく注目していた。	机上で一つの玩具でよく集中して遊べる子がいると、じっと見ていたことがあった。活発に遊ぶ子どもに対しては、その動きを追いかけることが難しそう。	金タロくんが喜ぶ遊びは、少しでも多く具体的に両親に伝えていきたいところである。大人との遊びが、今は最も刺激があることになることも伝えたいところ。
家族支援	* 母親は父親に対してもっと子どもと関わってほしいと感じている。また長女に対し、しばらく放任だった気がしている。	父親とゆっくり話す機会はないが、一度会った感じは、愛想のよい優しいお父さんではあった。タロくんの姉は、はきはきした口調で話をする。明るく元気な印象。	子どものことで頭がいっぱいになっている母親を、そっと見守っている父親ではないか。母は子ども二人のことで自分の就労のことで混乱気味なので、寂しい思いをしつつ、今の状況を受けとめているかもしれない。	父親の言い分をしっかりと受け止めていく機会は作っていきたい。タロくんの姉は母親そっくりのタイプとも感じる。似ているからこそ生じる子育てに関することを、一度話しをしていき、励ましたい。
地域連携	* 保育所との併行通園となる	送迎のことを考えて選んだ保育園。規模的にはやや大きめで、タロくんの入るクラスは、27名で二人担任。	クラスには他に担任が気になっている子が二人いる。その子らのことも含め加配職員が一人つくことになった。	定期的に連携をとっていくことは、保育園園長としては大歓迎とのこと。その頻度と連携の仕方について、近く具体的に決めたい。

記入様式 2

個別支援計画

受講者名 _____

利用者名 _____

作成年月日: _____ 年 ____ 月 ____ 日

総合的な支援方針

子育ての不安・悩みを解決する工夫を、一緒に見つけていきます。幼稚園等の生活に向けての準備を進めていきます。

○到達目標

長期(内容、期間等)

短期(内容、期間等)

○具体的な到達目標及び支援計画等

項 目	具体的な 到達目標	支援内容 (内容・留意点等)	支援期間 (頻度・時間・期間等)	サービス提供機関 (提供者・担当者等)	優先 順位
発達課題① ()					
発達課題② ()					
発達課題③ ()					
家族支援					
地域連携					

平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 利用者氏名 _____ 印 児童発達支援管理責任者 _____ 印 8

個別支援計画作成時の留意点(例)

利用者名

作成年月日: 年 月 日

○到達目標

長期(内容、期間等)
短期(内容、期間等)

- ◎どのような子どもに育ってほしいかを保護者とともに
- ◎ワクワク、ドキドキ感のある計画になるように本人とともに
- ◎具体的な到達目標とリンクさせることが必要
- ◎具体性は必要だが、気持ちの在り方や育む力など緩やかな表現も
- ◎長期目標は約1年、短期目標は3～6か月で設定

○具体的な到達目標及び支援計画等

項目	具体的な到達目標	支援内容 (内容・留意点等)	支援期間 (頻度・時間・期間等)	サービス提供機関 (提供者・担当者等)	優先 順位
・発達支援と家族支援と地域支援の割合は3:1:1を目安に設定。項目欄は、発達支援では発達課題(運動、遊び...)で記載してもよい⇒アセスメントと直結 ・「課題の整理表」で作成した「解決すべき課題」を考慮し、記載する。		支援期間終了後(モニタリング時)に到達しているであろう「子どもや家族の様子」を記載【主語は子ども・家族】 言葉で発せられるニーズだけでなく、子どもの成長に必要な「発達ニーズ」も検討して目標を設定			
				到達目標に掲げた子どもや家族等の様子になるよう、事業所がどのような「専門的な支援」、工夫、配慮を行うのかを具体的に記載。家族支援および地域支援の場合も具体的働きかけを記載【主語は事業所】 ※ モニタリング時に、事業所の支援の質、力量が問われる⇒達成できなかった場合は子どもや家族、地域のせいではなく、事業所の目標設定や支援内容が悪かったと評価する	

総合的な支援方針

- ◎障害児支援利用計画(こどもの支援利用計画)に記載されている、総合的な支援方針と同じ内容が入ります。
- ◎どのような子どもに育ってほしいのか、育てたいのかなどを含め、支援の見通し、イメージが持てるように(1年ではない長いスパンでの見通しも含めて)したものになります。

記入様式②の位置と異なっていますが、同じ内容です。

月

日

利用者氏名

印

児童発達支援管理責任者

印

地域の関連機関との連携の記入について

所属する事業所・施設における関連機関との連携について記入し、出来るだけ詳しくまとめてみてください。
この課題は、貴事業所・施設を取り巻く地域の中で活用可能な社会資源の状況を把握するもので、貴事業所・施設の置かれている状況や地域性を理解するための前提となるものです。

「地域の関連機関との連携」の記入の方法

- ①改めて、お近くの児童施設や行政の窓口、社会福祉協議会、インターネットでどんな機関が地域にあるのかを調べてみましょう。障害者相談支援事業所や特別支援学校、居宅サービス事業者等から周辺情報を得てもよいでしょう。
- ②貴事業所・施設が、現在あるいは将来利用する可能性のある教育・療育機関、サービス提供事業所や医療機関などについても、必要と考えていれば記入しておきましょう。
- ③実際に連携を取っている関連機関については、連携の度合いの強さが(頻繁に連携を取っている・必要に応じて・児童の入退園の時のみ・相手側から連携を求められた時のみ)図の中でわかるように書き表してみてください。

度合い  : 関係が強い  : 関係が普通  : 関係が弱い

関係性  : 相互関係  : 一方的

- ④個人的なつながりで、月に一回来てもらって言語指導をしてもらっているなど、関連の機関や組織というわけではなく、個人であっても、大切な療育資源ですから、記入して下さい。その際、その個人が特定できないように、十分に留意した表記をして下さい。(例:A大学のB先生月1回)
- ⑤フォーマルな社会資源のみではなく、インフォーマルな資源もご記入下さい。公民館で実施している子育てサークルや手作りおもちゃのグループ、事業所・施設の近隣の町内会や、気が向いた時にボランティアとしてくるが結構スタッフに影響力のあるCさんであるとか、無理のない範囲でご記入下さい。

○留意点

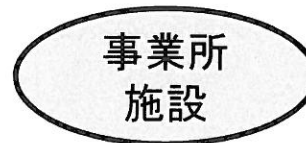
- * 現在は児童関係の事業所に直接は関わっていない方もいらっしゃると思いますが、勤務している地域の児童の支援の状況を十分に把握した上で、児童関係者の協力も得ながら、できるだけご記入下さい。
- * 事前課題につきまして、記入される内容に私的なつながりや、個人が特定されるような記述は、対象となる方に同意を得て下さい。(その場合は個人情報が入らないように処理して下さい。)

記入様式3

児童発達支援管理責任者研修(児童分野)地域の関連機関との連携 事前課題

受講者名: _____.

1. 自分の事業所における関連機関との連携に関するエコマップ



エコマップとは... 様々な社会資源との相関関係を系統的に図解したものです。

2. 上記のエコマップを記入してみて、「①どうしたら自分の地域は良くなるか、②どうしたらネットワークが強くなったり、ネットワークを広げることができるか」について、ご記入ください。

事例についての説明

- ・ 本ケースは、にっこり園と日頃より連携している、相談支援事業所スマイルのC相談支援専門員がまとめました。3歳児健診(3:9)の後、A県療育センター併設の、にっこり園での外来療育を経てにっこり園の児童発達支援を本格的に利用するケースです。
- ・ 皆さんは、にっこり園児童発達支援センターの児童発達支援管理責任者として、個別支援計画の作成に当たります。事例の情報(提供情報1～3)と、C相談支援専門員からの情報と支援利用計画(サービス等利用計画)を踏まえて、個別支援計画を作成していきます。
- ・ C相談支援専門員は、必要に応じて本ケースの就学後も、相談に応じていく立場です。
- ・ 細かなところで、この点はもっと細かく具体的な情報を知っておかないと、支援計画は立てられないといったところもあるかと思います。但し、じっくりとケースの情報全体を読み込んでいくとイメージできる部分や、意図的に情報をぼかしている部分もあります。不十分な情報で支援計画を立てることは難しいかも知れませんが、実際には関わっていないケースながら、記録をチェックしつつ、担当が立てた個別支援計画のチェックや修正を行っていくのも、各事業所の児童発達支援管理責任者の役割の一つでもありますので、どうぞご理解の上、事前課題に臨んでください。

子どもの現状（基本情報）

作成日	平成29年9月	相談支援事業者名	相談支援事業所スマイル	計画作成担当者	C相談支援専門員
-----	---------	----------	-------------	---------	----------

1. 子どもの育ち(支援経過・現状と課題等)および発達の状況

平成29年3月（3：6）

二語文はあったものの、抑揚のないしゃべり方や視線が合わないことを気にした両親が、独自にネットで調べるうちに、自閉症ではないかと感じてB市保健師に相談。母親は家庭での療育に困っていた。その年の4月での幼稚園入園は、言葉の少なさを理由に両親が見合わせる。

平成29年6月（3：9）

3歳児健診（B市では3歳9ヶ月に実施）、他児の模倣、状況に応じた発語もいくつかある。B市保健センターでの親子療育相談を経て、A県療育センター受診予約を行う。同時に併設のにっこり園外来療育の開始。 ※外来療育では、月4回の来所指導（療育クラスにて他児と一緒に活動）と来所相談、母親からの電話相談（随時）を行う。

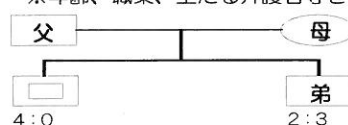
平成29年8月（3：11）

自閉症スペクトラムの診断（A県療育センター □□Dr.）。にっこり園児童発達支援センターの本格的な利用を希望。

2. 利用者の状況

氏 名	Kくん	生年月日	平成25年9月〇〇日	年 齢	4才〇ヶ月
住 所	A県B市〇〇町326番	電話番号	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	性 別	男・女
障害または疾患名	自閉症スペクトラム（A県療育センター □□Dr.の診断）				

家族構成 ※年齢、職業、主たる介護者等を記入



父親について：会社員（35歳）

仕事の休みは、ほぼ土、日であり、家族で外出をしている様子。子どもとよく行動を共にしており、家庭での様子など尋ねると、具体的に細かく答えることができる。（以下ににっこり園外来療育担当者より）見学の時は、母親よりよく質問をしてくる父親だった。優しく、温かな印象な方だが、母親の評価は低く、来所相談時に不満を訴えてくるということがよくあるとのこと。

母親について：主婦（33歳）

本児の主たる養育者。まじめすぎるところがあり、様々な情報にはすぐに振り回されてしまうところがある。第二子の発達についても心配しているが、兄とは違った成長をみせており、一時期よりは、にっこり園の職員にしっかりしていると言われたことを、受け入れられるようにはなっている。（以下ににっこり園外来療育担当者より）はじめは大人しい印象の方だったが、外来療育の来所指導に子どもが慣れた頃には、母親の表情も明るくなり、積極的に職員とは話をするようになっている。

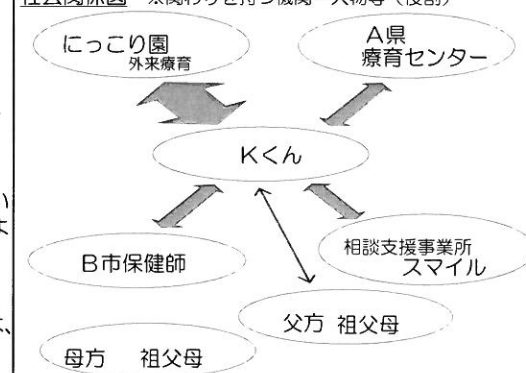
弟について：現在 2：3

1歳半健診の時、よく動き回ることで、保健師が定期的に様子をみていくこととなった。よくしゃべり、好奇心旺盛。対人興味も良好。兄によくくっついて遊んでいる。

祖父母について

父親の実家はすぐ近くにある。母親の実家は県外。父の実家の祖父母は、よくかわいがってくれるが、母は、あまり連れて行かないとのこと。

社会関係図 ※関わりを持つ機関・人物等（役割）



生活歴 ※受診歴等含む

妊娠時：つわり有 不安有 平成25年9月 出生、在胎38週 体重2833g 帝王切開
定額〇:4 寝返り〇:7 四つ這い〇:10 始歩1:1 始語2:8
平成29年8月 A県療育センターにて、自閉症スペクトラムと診断

医療の状況 ※受診科目、頻度、主治医、疾患名、服薬状況等

定期的な通院はなし。健康状態は良好。 身長：109cm
体重：20.5kg 頭囲：53.5cm 胸囲：58cm

ご本人の主訴（意向・希望）

友だちと同じことをしてみたい、一緒に遊びたい。
クッキングや貼り絵は好き。砂場で遊ぶのも好き。
夏はプールにたくさん入りたい。

家族の主訴（意向・希望）

来年度は幼稚園に通わせたい。言葉の数が増えて欲しい、発音がはっきりしないので上達して欲しい。自分が言いたいことは一方的に言うのだが、こちらからの問いかけや働きかけにも応じられるようになって欲しい。身の回りのことをどのように教えたらよいのか、コツを教えてください。

3. 支援の状況

名称	名称	提供機関・提供者	支援内容	頻度	備考
公的支援 障がい福祉サービス 介護保険等 その他の 支援	外来療育	A県療育センター内 にっこり園	来所相談と来所指導 電話相談	月に4回 随時	

子どもの支援利用計画

児童氏名	K くん			相談支援事業者名	相談支援事業所スマイル			
保護者氏名	〇〇 様	ご本人との続柄	父親					
福祉サービス受給者証番号	—	利用者負担上限額	—	計画作成担当者	C相談支援専門員			
地域相談支援受給者証番号	—	通所受給者証番号	—					
計画作成日	平成29年9月15日	モニタリング期間（開始年月）	3ヶ月ごと	利用者同意書異聞				
ご本人及びご家族の生活に対する意向（希望する生活）	（お母さん） 不安はあるけれど、来年度は幼稚園に通わせたい。 幼稚園で、みんなとうまくコミュニケーションを取れるように、言葉が増えて欲しい。発音が上達して欲しい。 大人や先生からの働きかけにも、応じられるようになってもらいたい。 身の回りのことをどのように教えるとよいのか？効果的なコツを教えてください。 （Kくん） 友だちと同じことをしてみたい、できるようになりたい。 子どもの中で遊びたい。体を使って、外で遊びたい。 クッキングや貼り絵が好き。							
総合的な援助の方針	子育ての不安・悩みを解決する工夫を、一緒に見つけていきます。幼稚園生活に向けての準備を進めていきます。							
長期目標	幼稚園への入園を見据えて、毎日通う生活のリズムを、整えていく。							
短期目標	Kくんのペースで、人とのやり取り・コミュニケーションを取る場面と経験を、広げていく。							
優先順位	解決すべき課題（ご本人のニーズ）	支援の目標	目標の達成時期	福祉サービス等		課題解決のためのご本人（ご家族）の役割	評価（見直し）時期	その他留意事項
				種類・内容・量（頻度・時間）	提供事業者名（担当者名・電話）			
1	言葉が増えて欲しい。発音が上達して欲しい。（お母さん）	言葉によるコミュニケーションについて、Kくんが自信を伸ばしていく。	6ヶ月	- A県療育センター - 児童発達支援（週5日）10：00～15：00	- A県療育センター 主治医 □□Dr. - にっこり園 児童発達支援管理責任者 D	受診時に、言葉についての心配事を、主治医の□□Dr.にも相談してみてください。	6ヶ月	言葉への自信を伸ばしながら、働きかけにも応じられるように、Kくんが分かりやすい伝え方を工夫していきます。
2	身の回りのことをどのように教えるとよいのか？効果的なコツを教えてください。（お母さん）	家庭や日々の生活場面での接し方について、お母さんが一緒に工夫を見つけていくネットワーク（仲間）を作る。	6ヶ月	- 児童発達支援（週5日）10：00～15：00 - 児童発達支援のお母さんの会（月1回）	- にっこり園 担当保育士 E - にっこり園の先輩お母さん	家庭での様子を、教室の職員にも教えて下さい。一緒に見つけた工夫を、試した結果もぜひ教えてください。	6ヶ月	お母さんの会には、弟さんも一緒に参加OKです。
3	友だちと同じことをしてみたい、できるようになりたい。（Kくん）	友だちと活動を共有する。特に身体を動かす活動・物を作る活動の機会を広げる。	6ヶ月	- 児童発達支援（週5日）10：00～15：00 - 子育て支援センターの親子体操行事（月1回）	- にっこり園 担当保育士 E - えくぼ子育て支援センター 子育て支援担当 F	お父さんが休みの日の外遊び、身体を動かす遊びを、今後もしようをお願いします。	6ヶ月	
4	来年度は幼稚園に通わせたい。（お母さん）	地域の幼稚園の情報を、詳しく知る。情報を集める際の、相談先を作っておく。	3ヶ月	- 相談支援（随時） - 幼稚園の体験入園	- 相談支援事業所スマイル 相談支援専門員 C - 地域の幼稚園	近くの幼稚園の情報を知っていきましょう。実際に見学も進めてみましょう。	3ヶ月	体験入園への参加も、検討してみてください。

児童支援・サービス等利用計画【週間計画表】

児童氏名	K くん			相談支援事業者名	相談支援事業所スマイル
保護者氏名	〇〇 様	ご本人との続柄	父親		
福祉サービス受給者証番号	—	利用者負担上限額	—	計画作成担当者	C相談支援専門員
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号			

計画開始年月	平成29年10月1日
--------	------------

	月	火	水	木	金	土	日・祝	主な日常生活上の活動
6:00								・平日はにっこり園に送迎バスを利用して、単独で通う。土日など、お父さんがお休みの日は、家族で外に出かける。 ・夕食までの時間は、家の中でゆっくり過ごすか、疲れて寝てしまうことが多い。
8:00	起床							
	朝の準備							
10:00	送迎バス	送迎バス	送迎バス	送迎バス	送迎バス			
12:00	児童発達支援 (にっこり園)	児童発達支援 (にっこり園)	児童発達支援 (にっこり園)	児童発達支援 (にっこり園)	児童発達支援 (にっこり園)	お父さんがお休みの日は、家族で外出することが多い。公園や体を使って遊ぶことが好き。		
14:00								
16:00	送迎バス	送迎バス	送迎バス	送迎バス	送迎バス			
	夕食までの時間に、眠ってしまう日もある。起きている日は、DVDや本を見て過ごしている。							
18:00	夕食							
20:00	就寝の準備							
22:00								
0:00								
2:00								
4:00								・A県療育センターに、おおむね3カ月ごとに受診。言葉の発達などについての相談をする。 ・月に1回、にっこり園主催のお母さん会に参加。先輩お母さんと情報交換を行う。 ・月に1回、近所にあるえくぼ子育て支援センターにて、親子体操教室に参加。

サービス提供によって実現する生活の全体像	毎日通う場所を作って、来年度以降の幼稚園入園の準備をするために、計画を作成しました。 幼稚園生活に必要な、気持ちをうまく表現するための言葉の発達・友だちとの交流の経験・身の回りのことの技術を、にっこり園の集団活動の中で、Kくんのペースに合わせて進めることができます。またお母さん会では、幼稚園の情報や子育てのアイデアについても、気軽に話すことができます。 幼稚園選び、その後の生活の見通しについても相談できるネットワークを作っていきます。
----------------------	--

事例の説明

平成29年9月時点の状況(4歳0ヶ月)

事例について	年少になる前(平成29年3月)に、B市保健師に相談。保護者が独自にネットで調べるうちに、自閉症ではないかと感じて相談していた(3歳6ヶ月)。 3歳児健診(B市では3歳9ヶ月に実施)→B市保健センターでの親子療育相談→A県療育センター受診予約と、併設のにっこり園外来療育の開始(母親との電話相談と、月4回の来所相談と来所指導) →自閉症スペクトラムの診断を受け、にっこり園児童発達支援センターの本格的な利用を希望(3歳11ヶ月)。
にっこり園の療育体制	外来療育は母子通園、療育クラスと一緒に活動する。母が相談時には、本児のみクラスで過ごす時間もある。児童発達支援を利用の場合、本人のみの単独通園。10～16人(12人ベース)の縦割りのクラス。スタッフは、3～4人。
平成29年9月までの発達経過等の概要	年少になる前の相談時(3:6)は、二語文は聞かれたが、音声未成熟で、抑揚のないしゃべり方。視線は合いにくく、多動性はないが、注意転導性(+)。目と手の協応は良好で、形の弁別など試行錯誤にて対応可。家庭では癇癢を起こすことが多かった様子。母親は障害があったらどうしようと混乱していた。その年の4月での幼稚園入園は、言葉の少なさを理由に両親が見合わせる(3:7)。 3歳児健診時(3:9)には、他児がやっていることの模倣が見られだし、状況に応じた発語も増えてきた。見本を見て描く、つくる、操作するということにも挑戦する姿がある。 診断を受け、児童発達支援を利用するにあたり、半年後の年中の4月からは、幼稚園に入園させたいと母親は考えるようになっている。
平成29年9月の母親のニーズ	運動:ボールを遠くに投げられるようになり、また思い通りに蹴られるようになること。ブランコを自分でこぐこと。手先のこと: 鋏の持ち方が正しくできること。絵が少しでも上手に書けるようになること。ADL: オマルではなく、トイレで大便ができるようになること。一人で服を脱げるようになること。片付けができるようになること。ことば: 自分の話したい事はよくしゃべるのですが、こちらからの問いかけには無視することが多いので、何とか変わってほしいです。発音が上達してほしいです。社会性: お友達と玩具の貸し借りができるようになること。こちらからの提案を聞いて実行できるようになること。その他: トイレや歯磨き、入浴など誘っても必ず嫌がります。さっさとできるようになるための接し方のコツを教えてください。

事例の発達の状態

平成29年9月時点の状況(4歳0ヶ月)

項目	状 態	項目	状 態
食 事	園では、スプーンを声かけにより、回内筒握りで使用する。ご飯、麺類を主に食べる。野菜類は食べようとしない。「～を食べてから、ごはんをおかわりしようね。」というやり取りに応じるようになっているとのこと。声をかけると自分の食器の片づけ(+)。	排 泄	外来療育の来所時は、布パンツで過ごせるようになっている。尿意は事前に知らせるようになった。トイレにて立位で排尿(+)。下衣を膝下まで下して用を足している。排便は、トイレに座って行うことに挑戦中。後始末は大人が行う。
着 脱	片腕を抜いたところから一人で脱ぐことができては始めている。服の絵柄を見て、前後を意識すること(+)、脱いだ服をたたむこと(±)。靴を履く(+)。注意が移り易いようだが、励ましにより、取り組めるようになっている。	睡眠 リズム	起床7:00～7:30。就寝は夕方に眠ってしまうと、22時に、寝ていないと20時。布団には早めに就いても、就寝までに時間がかかることは多い様子。
情緒 ・ 行動	外来療育においては、他児が使っているもので欲しいものがあったりもしばらく待つことが見られた。思い通りにならないと、不機嫌になることはあるが、理由は明確なことがほとんどで、話をすることで納得することも増えている。	認知	絵パズル類はよく集中し、見当づけをしてはめ込んでいく。形が優位であり、絵を見ていないことは多い。空間構成の課題について、平面では2×2マス目の内容に対応可。3×3だと混乱。積木構成は家の模倣などシンプルな形であれば(+)。十字模写(+)。
粗大 運動	連続ジャンプ、ケンケン(+)、飛び石渡り(ー)思い切りよく～する、力強く～するといったことは苦手なこととなり易い。転がるボールを捕まえること可。三輪車はペダルをこげない。階段の昇降は、片足ずつ交互に可。カニ歩きは模倣意識大だが、難しい。	微細 運動	ハサミで簡単な形を切り取ること(+)、折り紙を半分に折ること(+)。折り目は弱い。文字に興味があり、文字のなぞりを行うと、筆圧は弱く、ふらつきも大きいながらもよく取り組む。
言語 理解	主な色名(+)。カードを見て、動作語はよく理解している。物の用途については、答えられない。ごく簡単な仮定文などに答えることはあるが、パターン的な答え方である。頼まれたものを離れた場所に取りに行くこと可。絵本の内容についての簡単な質問に対応可。	言語 表出	昨日のことを話すこと(+)。歌はいくつか覚えていて歌うこと可。仲の良い子とは、言葉で物の貸し借りなどができ出した。構音については、長めの単語だと不明瞭になり易い。音節分解が確実でなく、音の省略、置換、歪みが多い。/r/→/j/、/s/→/j/の置換は固定。
対人 関係	電話ごっこ可。ケンカになった時に言いつけにくことは難。大人との関わりは、対子どもに比べ良好で、指示がよく通り、褒められようとする姿は増えてきている。	集団 参加	ままごと遊びで役を演じることは難。来所指導時に、避難訓練のような突発的な行事があっても、他児に「逃げてー!」と言うなど落ち着いている。集団の流れを意識して行動できる。テンションは高くなりがち。ルールを守れない子に、注意をすることも見られた。
描画 造形	下絵にマッチングして貼っていくことは熱心に取り組む。見慣れたものであれば、自分で配置を考えながら、貼り絵を楽しむこともある。人の絵はまだ描けない。(描こうとしない?) 砂場遊びは好きで、穴を掘ったり山をつくったりして遊ぶ。	音楽 リズム	楽器遊びでは、誘いには乗ってくる。ランダムに打楽器を叩いている。リトミックにおいて、一つずつの動作はしっかり模倣しているが、動作から次の動作への連動において、混乱し易い。
興味 関心	アルファベットや、数字には関心がある。絵描き歌も大好きで、根気よく何度もまねて描こうとする。虫や動物などの生き物、乗り物の図鑑は好んで見る。勝ち負けへの興味、他の子が持っている物への興味が多く見られる。クッキングや夏場の水遊びも楽しめるとのこと。父と行くプールでは軽く片手を支えれば、伏し浮きができるとのこと。		

提供情報 3

アセスメント結果(にっこり園)

平成29年9月時点の状況(4歳0ヶ月)

<心理評価>

使用検査: 新版K式発達検査 (枠内数値は、発達指数。括弧内は発達年齢)

歴年齢	全領域	姿勢・運動	認知・適応	言語・社会
4:0	79(38カ月=3:2)	95(46ヶ月=3:10)	75(36ヶ月=3:0)	79(38カ月=3:2)

検査時の様子

大人の意図に沿いながら、約30分程度取り組むことができた。(本ケースは、見慣れたにっこり園外来療育担当者が検査を担当したため、スムーズに課題に取り組むことができており、短い時間でのチェックができた。また、上記の検査結果は本児が通い慣れた場所での検査実施だけに、本児の力をしっかりと引き出した結果だと考えられる。今後も別な機関の判定等での結果とは、差が生じてくる可能性が高いことを十分に意識しておきたい。)

積み木構成:「家の模倣」～時間はかかるが、見本と見比べながら調整して作る。「門の模倣」～中央の積み木が乗らずに涙目になる。積み木を傾けずに乗せようとする。四角構成:斜めをとらえきれず、提示した状態のまま横にスライドして合わせるのみ。試行錯誤はほとんど見られず。折り紙:「折り紙Ⅱ」は、見本を見た後に「むずかしいなー。」と言い、すぐに諦めて、丸め始める。

人物完成:不足箇所気付かない。鉛筆で図をなぞり、「できた!」 比較概念:大小は確実に指さす。長短、軽重は、両方を指さしたり、両方を渡してきたりなどの反応。 積み木叩き:教示途中で叩き始める。1・2・3・4と叩くのみ。復唱:4数になると、始めの数のみ正しいが、あとは(ー)。短文復唱では、文章の語尾のみの復唱となり不通過。 了解:仮定の場面を想像することは難しい。数:カウントは10まで可。一対一対応は、さした指がずれて、3以上になると数え間違いしてしまう。数量としては、3まで可。

その他:補足

言葉によるコミュニケーションがとれるようになり、母親としては日常の生活が随分楽になってきたとのこと。近所の子どもの輪の中に入って遊ぶ姿も見られるようになった様子。決まった物しか身につけようとしな(穴のあいた靴)ことなど、こだわることが少なくなったとのこと。来年度は幼稚園に通わせたいという気持ちが膨らんでおり、児童発達支援の利用準備と並行して、近くの幼稚園の園庭開放に、2園連れて行ってみた。職員の数に少なさと子どもの数の多さに驚き、母親は不安を感じた様子。(市街地に住んでいることもあり、家から園バスに乗って通うことができる幼稚園は、10園程ある。)